

## イエスを殺す罪人たちの喜び

ルカによる福音書二二章一〜13節

祭司長たちや律法学者たちは、どのようにしてイエスを殺そうかと謀っていた。彼らは民衆を恐れていたのである。(2)

過越の食事の準備が進められる一方で、イエスを殺す準備も進められていました。祭司長や律法学者たちはイエスを激しく憎み、何とかしてイエスを殺そうと謀っていました。民衆を恐れてその計画が進まずにいたとき、彼らのもとに喜びの知らせが届きます。イエスの弟子の一人ユダがイエスを殺害に協力するというのです。これで思いのままにイエスを殺せると彼らは喜びました。律法の専門家として、「殺してはならない」と人々に教えながらも、彼らはイエス殺害のチャンスが到来したことを喜びました。彼らは人を恐れても神を恐れてはいなかったからです。人を殺すのは、神を恐れない者にして初めて可能になります。私たちは心の中で何度人を殺してきたことでしょう。神を恐れる心を失っているからです。私たちの内にもイエスを殺す喜びがないか、見つめてみようではありませんか。